

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

広島県東広島市

○学校名

東広島市立川上小学校

○学校のURL

<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/kawakami-sho/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 19学級 【特別支援学級】 2学級 【合計】 21学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 586人（平成27年11月23日現在）

内訳：第1学年114人 第2学年112人 第3学年97人 第4学年73人 第5学年83人 第6学年96人 特別支援学級11人

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成26・27年度 文部科学省委託人権教育研究指定事業

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「認め合い 支え合い 学び合う 心豊かな川上っ子」

【人権教育に関する目標】

「自他の違いやよさに気付き、認め合い学び合う児童」

(求める児童像)自分を大切にし、他人を大切にして、共に生きていく児童

○人権教育に係る取組一口メモ

児童が「あたたかく聴き」「やさしく話す」ことを繰り返すことで、自己や他者を尊重しようとする感覚の育成を図る。組織的に人権感覚を育てるために、学校全体や児童一人一人への取組を計画し実践する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

- 人権教育アンケート、Q-Uによる、児童の実態把握と分析、課題把握
- 人権が尊重される学習活動づくり [一人一人が大切にされる授業]
- 人権が尊重される人間関係づくり [互いのよさや可能性を認め合える仲間]
- 人権が尊重される環境づくり [だれもが安心して過ごせる学校・教室]
- 取組の結果分析、考察

3. 特色ある実践事例の内容

1 本校の実践の目標

本校では、人権教育で育てたい力を、下の表のように整理した。

知識	人々が幸せにくらすために、ルールやマナー、人を不快にしない言動があることを意味理解を伴って知っている。
感性	行為の善悪に気づく。他者との違いを認め、他者の気持ちが想像できる。
人権感覚	自ら考え、正しく判断し、適切な表現や行動ができる。

学校の教育活動のあらゆる機会を捉えて、積極的に育成し、全教職員で「自分を大切にし、他人を大切にして共に生きていく児童」を育てることを目指していく。

2 具体的な実践

(1) 人権が尊重される学習活動づくり

本校で捉える「学び合い」とは、人と「かかわり合う場」の中で、お互いの考えを聴いて考えて人につないで話すことを繰り返すことを通して、共感を大切にし、自他のよさや違いを認め合うことである。また、認め合える仲間との学習によって、「一人の学び」が「友達との学び」となり、さらに、全体交流で「みんなの学び」となっていく。共感を大切にしたかかわり合いによって、「認め合い」「学び合い」が生まれる。

特に、人の話をしっかりと受け止め（あたたかい聴き方）、思考し、人の発言につないで発表する（やさしい話し方）という流れを授業の中心に据える。人の考えを受け止めて理解しなければ思考は生まれず、思考しなければ表現はできないので、本校では、まず、聴き方を学ばせる。発表する相手に体を向けるだけでなく、うなずいたり、自分の考えと同じところや違うところを見つけたり、話し手の思いを感じたりして、共感を大切にしたい聴き方をすることである。（あたたかい聴き方）

さらに、人の発言につないで、付け足す、まとめる、修正するなど、人の考えを大切に発言する（やさしい話し方）。このようにして相手と自分がつながったと思うと、人に認められたと感じることができる。全校の「あたたかい聴き方・やさしい話し方」の表をもとに、学級独自の聴き方・話し方を、教師と児童が共につくっていく。

別紙3

あたたかい聴き方・やさしい話し方

聴き方	聴き方			話し方	話し方			発言のつなぎ方	
	低	中	高		低	中	高		
①人を大切にして、新たな見方・考え方を取り入れようとして聴いている			☆	②人を大切にして、人の意見を聴いて意見したり考えが変わったことを発表したりする			☆	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは～と言いましたよね。その～の部分が大事だと思っています。だからぼくは、～と言います。～のことが新しく分かりました。・〇〇さんの考えの～が分かりやすいです。 ・〇〇さんの考えを聴いて、～の考えは変わりました。
②人の意見をまとめながら聴いている			☆	③人に分かりやすく伝える (たとえ・生活や経験とつなげる・これまでの学習と関連付ける・まとめる)			☆	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・たとえば～ ・お前さんが言っていたけど～ ・本に書いてあったんだけど～ ・前に習った～と似ている ・みんなの意見をまとめると～
③人の考えの改善点を考えながら聴く		☆	☆	④人と異なる意見を発表する		☆	☆	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの考えと少し違って、ぼくは～ ・～すると、もっと簡単にできます。
④自分の考えと比べながら聴く		☆	☆	⑤人の考えを別の言葉で言い換える		☆	☆	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの意見は、つまり～ということです。 ・〇〇さんの言いたいことは～ということですよね。 ・もう一度言います。
⑤これまでの人の考えや学習したことを関連付けて聴く	☆	☆	☆	⑥人の考えに付け加える		☆	☆	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・付け足します。 ・〇〇さんと同じで～ ・〇〇さんと似ている～
⑥人の考えの強弱・よさ・意図を聴き取る	☆	☆	☆	⑦分からないことをたずねる		☆	☆	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんが言っていることが分からないので、もう一度言ってください。 ・質問します。
⑦話し手の言いたいことを分かるうとして聴く	☆	☆	☆	⑧みんなの反応を確かめながら話す		☆	☆	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・聴いてください。 ・言います。 ・～ですよね。
⑧うなずいたり、あいづちをうったりしながら聴く	☆	☆	☆	⑨理由をみんなに伝える		☆	☆	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・わけを言います。
⑨人の話を最後まで聴く	☆	☆	☆	⑩みんなに関心するような声の大きさを話す		☆	☆	☆	
⑩話す人に体を向けて聴く	☆	☆	☆	⑪みんなの方を向いて話す		☆	☆	☆	

本年度、人権尊重の視点に立った「認め合い」「学び合い」のある授業づくりを進めるために、研究教科・領域等として、授業の構造化において共通理解の図りやすい算数科、また、人権教育と「規則の尊重」「思いやり、親切」「尊敬、感謝」「生命尊重」という価値内容が重なっている道徳の時間に取り組むこととした。



道徳の時間の取組

① 道徳の時間における「かかわり合い」「学び合い」

「学び合い」が展開されるように、ペアトークやグループトークを効果的に取り入れる。また「やさしい話し方、あたたかい聴き方」により意識的な話し合いを行う。指導者と児童の閉じられた受け答えではなく、相互作用を促し、聞き合いや議論が生まれるように配慮する。学習形態を工夫して活用するとともに席の並び方にも留意する。

また、話し合いは学年段階で質が変わるため、違いを念頭に授業を構成していく。

《低学年的な傾向》		《高学年・中学校の傾向》	
○感性を生かした共感的な話し合い	⇒	○客観的、批判的な見方も含んだ話し合い	
○発問をていねいに重ねる話し合い	⇒	○発問をより絞った自由度の高い話し合い	
○考えの違いを見つけあう話し合い	⇒	○意見が鮮明に対立する話し合い	
○指導者のリード性が高い話し合い	⇒	○子どもの考えがつくる話し合い	

さらに、話し合うためには、児童一人一人が話し合うための意見や考えをもっていないと、話し合いが成立しない。そこで、書く活動を学習時間の中に確保し、自分の考えと向き合い、意見を明確にした。ワークシートを「心の貯金箱」と題し、主発問の部分やテーマ発問の部分での記述をさせる。

② 道徳の時間にねらう価値基準づくり

本校では、道徳の時間に変容をねらう価値内容に関する「価値判断表」をつくり、児童からどのような言葉が出てきたらねらいに迫れているのか判断できるようにしている。それを考えることで授業の方向性を教師がはっきりとさせることができ、内容項目がぶれることなく指導できる。「価値判断表」は、児童の予想される発言を3段階で評価するように設定した。

価値レベル	2-(2) 思いやり・親切	判定キーワード
1	親切にしようとするができる。	・ほめられるかもしれない。
2	相手のことを考えて親切にしようとするができる。	・教えてあげたら、喜んでくれる。 ・あの人は○○がなかったら困ると思うから教えた。
3	相手のことを考えて誰に対しても、どんなときでも親切にすることの大切さに気づくことができる。	・相手がどんな人でも親切にしないと後悔する。 ・親切にすることが人として大切なことだと思う。

本校の学習指導案に記載している「価値判断表」の例

② 「私たちの道徳」の活用

学習時間の構築ということで「私たちの道徳」も効果的に取り入れるよう心がけた。

ア 導入や終末での活用

導入では、価値への方向付けや主題にかかわる問題意識をもたせたり、学習への雰囲気づくりをしたりする。終末では、道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。

イ 展開前段での活用

「読み物資料」を中心として道徳的価値の理解を深める。

ウ 展開後段での活用

「書き込み欄」を活用して、現在の自己の生き方を振り返る。

「読み物資料」を活用して、学んだ価値をあたためる。

③ 「学び合い」がしたくなるような児童の実態に合った教材の開発・実践

道徳の資料は、登場人物の気持ちがしっかりと想像できる、自己を振り返ることができるテーマをもった資料を重点的に扱っていく。そして、道徳的価値の自覚をより深め、自己の生き方を問う授業展開を行うために、人間関係や価値内容の関係を浮き彫りにすることを重視した構造的な分析を積極的に行う。また、学び合いたいと思えるような資料の提示方法や発問についても改善を図っていく。

《資料の提示方法》

- 役割演技などを取り入れた劇化
- 紙芝居やペープサート
- ICTを用いたスムーズな資料の提示や効果音などの活用

《発問》

発問には、授業の中心となる「中心発問」、「中心発問」を考えていくために必要な内容を押さえていくための「基本発問」、中心発問を補ったり視点を変えたり、いわゆる「切り返し」となる「補助発問」があり、この3つの発問について熟考する。更に発問する場においては次のような事柄に留意していく。

- 児童の目を見て発問し、発言を傾聴し、一人一人の発言を認める。
- じっくりと考える時間を与える。
- 児童の表情、動作、つぶやき、目の動きなど「声にならない声」にも気を配る。
- 単発の話し合いにならないように、比較、練り上げ等ができるような手立てを考える。
- 方向性や考える視点を与えるような助言をする。

算数科の取組

① 算数科における「かかわり合い」「学び合い」

算数科の授業の中で「あたたかい聴き方」によって友達の考えを受け入れることにより、自分でそれが正しいかどうかを確かめたり、共通点や相違点、改善点を考えたりする個人思考が生まれる。この思考によって、気づいたり発見したりしたことを、「やさしい話し方」で人に伝える。

算数科の授業における「やさしい話し方」は、算数科としての学習内容の理解や定着のために、次のことに留意して指導する。

- ・理由を明確にする。
- ・算数用語を使う。
- ・図や表を使って説明する。
- ・友達の考えに付け加えて話す。
- ・友達の考えの修正、アドバイスをする。

「かかわり合いの場」の中で、「あたたかい聴き方」「考える」「やさしい話し方」を繰り返す。その仲間との学習によって、「一人の学び」がペアやグループでの学習を通して「友達との学び」となり、さらに、全体交流で「みんなの学び」となる。

② 問題提示の工夫

「話し合いたい」「みんなで解決したい」と思えるような問題提示の工夫を児童の実態や学習内容に合わせて行う。



- ・実物を見せる。
- ・話形式で問題を提示する。
- ・絵や図、表やグラフを見せる。
- ・大事なことを隠して提示する。
- ・情報不足（過多）の問題を与える。
- ・違った方法を見せる

③ 自力解決の工夫

自力解決の時間に、どの児童にも自分なりの考えをもたせる工夫をする。特に、自力解決できない児童への手立てを必ず講じることにしている。どこでつまづくかを可能な限り予想し、手立てを複数準備しておく。共感を大切にかかわり合わせることができるよう、特に留意する。

- ・既習内容の掲示
- ・時間の確保
- ・ヒントカード
- ・ノートの見直し

④ 振り返りの充実

毎時間の授業の終末に、2点に絞って学習を振り返らせる。それを大切にすることで、友達同士で認め合ったり、自分の「学び合い」の進歩を確かめたりすることができる。1つ目は、授業での新たな学びについてである。自分は何を学んだか、明確にさせる。2つ目は、自分の変容についてである。友達の意見や活動のよさに気づいたり学んだりしたことを確認させる。これが「認め合い・学び合い」につながる。この振り返りを積み重ねることにより、次の学習での「かかわり合う場」を更に充実させることができる。

(2) 人権が尊重される人間関係づくり

① 人権尊重の視点に立った学級づくりの計画

本校の人権教育目標の達成に向けて、1年間を見据えた学級経営を重視する。5月に実態調査（Q-U）と分析で明らかになったことに観察や面接を加え、総合的な学級経営計画（「人権尊重の視点に立った学級づくり計画」）を立案する。

② なかよし班活動

学年を超えて全校児童がかかわり合い、協力し合うことで、上の学年の児童のよさを見習ったり、下の学年の児童の世話をしたりして、反省のときに互いによいところを発表して認め合う。また、班長や担当教員からもよいところを話し、児童の自己肯定感を高める。特に、高学年児童には、リーダーとしての自覚や「自分がたよりにされている」という自己有用感をもたせる。



なかよし班そうじ



なかよし班遊び



なかよし班遊びの振り返り

③ 「ありがとうの木」づくり

学校であったできごとの中から、友達に伝えたい「ありがとう」という感謝の気持ちを紙に書いて、学年ごとに「ありがとうの木」に張り付ける。「ありがとう」の感謝の気持ちを学校中に広げることで、児童の自己肯定感を高めていくことにつなげる。



④ ステキだね賞

月ごとに、教師が自分の担任する児童以外の児童の「よかったこと」「がんばっていたこと」を1名以上記入し、「ステキだね」ポストに投函する。このカードは、職員室前に「今月のキラリ」と題して掲示するとともに、朝会時に表彰する。この取組を通して、教師は児童のよいところやがんばりを認め、「ありがとう」という感謝の気持ちを学校中に広げる。児童は、掲示を読んで見本となる行動を具体的に知ったり、表彰に向けて意欲的に行動したりする。教職員も、児童のよいところに視点を当て、児童を見ることが出来る。



⑤ 川上小学校いじめゼロ宣言

児童会が企画して「いじめゼロ宣言」の取組を行う。各学級でいじめをなくすための取組を考え、更にスローガンを決定して、実践化を図る。



企画委員会がレイアウトを考えた横断幕

(3) 人権が尊重される環境づくり

① 規律とマナーを大切にした人的環境

ア 「東広島スタンダード」

月ごとにあいさつ目標と生活目標を決めて、全校で取組を進める。

あいさつ へんじ ことばづかい はきものをそろえる



イ 静かに掃除・静かに集合

川上小学校の宝として、毎年、伝統を受け継ぐという意識をもたせる。全校が黙って掃除をすること、黙って集合することが定着している。

② 人権啓発掲示板

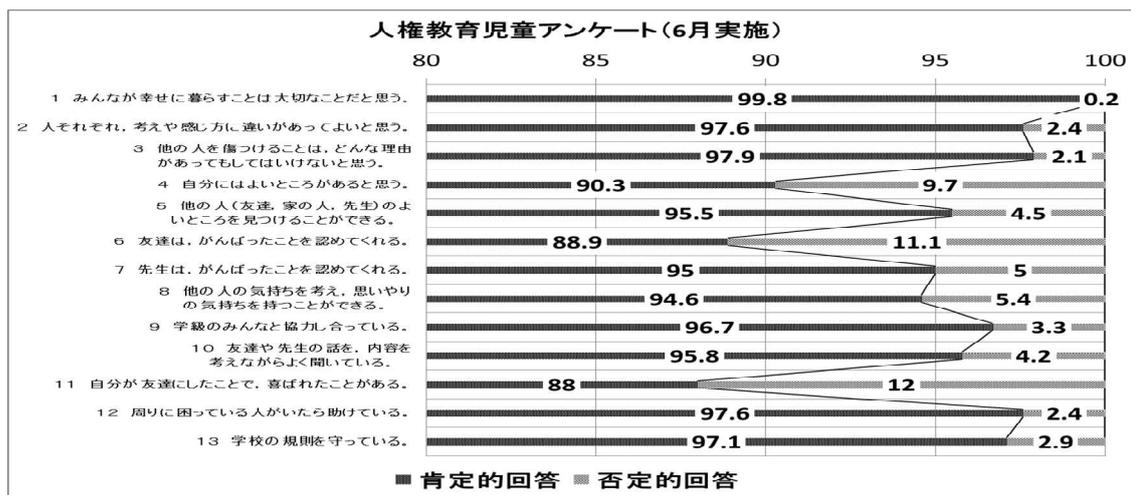
職員室の前の掲示板を使い、月ごとにテーマを決めて、心を育てるための掲示をする。毎日、児童が目にすることで、学校生活の中の児童の日々の行動を価値付ける。



4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

(1) 取組を実施する際に生じた課題

6月に人権教育アンケートを実施した。昨年度と比べ、児童の人権に関する意識は確実に高まっている。しかし、次の3つの設問について、依然として課題がみられた。設問4(自分にはよいところがあると思う。)設問6(友達は、がんばったことを認めてくれる。)設問11(自分が友達にしたことで、喜ばれたことがある。)である。



本校児童には、自己理解と他者理解の両面が深まる取組を進めて、自分も人も尊重して共に生きていくことの大切さを日々の学校生活の中で実感させることが必要であることが分かった。

(2) 課題に対する解決方法

① 組織的、共同的な授業研究推進

更に組織的、共同的な授業研究を進めることで、授業力向上を図った。

事前協議 (算数部・道徳部 研究授業2週間前までに実施)

- 学級経営案を資料に学級実態の共有化
- 抽出児童とその実態の確認、観察分担の確認
- 指導案の検討
 - ・ 学級、児童の課題解決に迫る授業となっているか
 - ・ 指導目標が明確で、目標達成に向けた展開及び評価となっているか
 - ・ みんなで考え話したくなるような課題や発問の工夫がされているか

- ・ 児童同士の「かかわり合う場」の設定や工夫は「認め合い」「学び合い」につながるか
- ・ 授業観察カードの確認

事後協議（全体及びブロック）

- 実態の説明と前時までの手立て、どこにポイントを絞っていったのか説明
- 抽出児童を担当者が見取り、事後協議で報告
- 説明報告をもとに、全体と個で授業を分析（授業者の手立てについての協議）
また、次の検証の視点をもって授業観察を行うこととした。

検証の視点① 児童同士の「認め合い・学び合い」の姿はどうだったか。（あたたかく聴く、やさしく話す）
 検証の視点② 共感を大切に「かかわり合う場」の設定や手立てが工夫できていたか。
 検証の視点③ 人権尊重の視点に立った「認め合い・学び合い」が生まれるような学習指導過程であったか。（課題、発問、切り返し、振り返り等）

② 講師招聘

本年度は、広島県教育委員会、広島県西部教育事務所、東広島市教育委員会から指導主事を招聘して、授業実践及び理論的な研修を行い、また、広島県教育センターのサテライト研修で人権教育についての理論研修を行った。

③ 授業力の向上

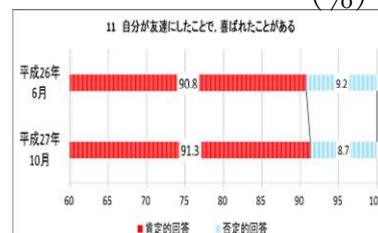
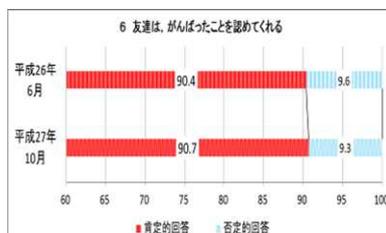
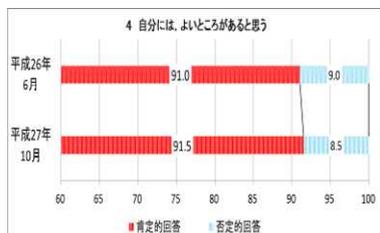
毎月、放課後に2～3回、学年部で「パワーアップ研修」の時間を設定し、児童の共通理解を図ったり教材研究を行ったりし、授業力アップを目指した。

④ 人権が尊重される人間関係づくり

1年間を見据えた計画的な学級経営・人間関係づくりを重視することにした。具体的な足跡となるように、学年部を中心にPDCAサイクルを念頭に計画・実践した。

5. 実践事例の実績、実施による効果

取組を進めてきた結果、課題であった3つの設問の10月の回答を見ると、どの設問の数値も昨年度より上がっている。「自分にはよいところがあると思う」は0.5%、「友達は、がんばったことを認めてくれる」は0.3%、「自分が友達にしたことで、喜ばれたことがある」は0.5%いずれも小さい幅であるが伸びている。 (%)



個に焦点を当ててみると、第2回のQ-Uの結果では、A児の回答は1（全くあてはまらない）から、下記のように変容した。

- ・「他の人（友達、家の人、先生）のよいところを見つけることができる」 1→4（すこしあてはまる）
- ・「学級のみならず協力し合っている」 1→5（よくあてはまる）
- ・「自分が友達にしたことで喜ばれたことがある」 1→4（すこしあてはまる）
- ・「周りに困っている人がいたら助けている」 1→5（よくあてはまる）

学級にA児の居場所があり、皆と認め合いながら、よさを発揮できている。

また、算数科についての児童アンケートの結果においても、次のような変容がみられた。

- ・「算数の授業では『できた』『分かった』と思うことがありますか」 1（ほとんどない）→3（少しある）
- ・「算数の授業が楽しいですか」 1（楽しくない）→3（少し楽しい）

認め合える仲間づくり，個々の児童へのきめ細やかな支援の双方からの取組を進めてきたことで，A児は人や自分を大切にするという人権尊重の意識が確実に高まっている。

6. 実践事例についての評価

実践を通して，児童同士の共感を大切にした「かかわり合う場」の意図的・計画的な設定や手立ての工夫をした授業を行ったことは，児童の学習意欲を高め，自他の大切さを認めさせる上で効果があることが確認できた。また，Q-Uやアンケートなどの客観的データをもとに，取組を組織的に行うことは，効果を確実にする。そして，教師自身の児童一人一人を大切にしようとする人権意識を高めることは，児童の人権意識を高めることに大きな影響があることにも気づかされた。

これからの課題は，人権尊重の理念に基づく教育活動を推進することによって，児童に「確かな学力」を育むことである。全職員で引き続き邁進していきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

東広島市立川上小学校

人権が尊重される学習活動づくりは，人の話をしっかり受け止めるという「あたたかい聴き方」と，人の発言につないで発表する「やさしい話し方」，「発言のつなぎ方」の三つをより具体化した全校の表をもとに，学級独自の聴き方・話し方を教師と児童が共に作り，「認め合い」「学び合い」のある授業づくりとして進めている。人権が尊重される人間関係づくりや環境づくりにおいても，各担任が立案した「人権尊重の視点に立った学級づくり計画」をもとに学級実態を教師間で共有し，授業研究の場や抽出児童へのきめ細やかな支援等にも生かしている。自分の担任する児童以外の「よかったこと」「がんばったこと」などを全校に紹介する「ステキだね賞」も，個々の教師が一人一人の児童の姿を日常的に把握していることの現れといえる。